



夏休みがはじまります！

本日、7月20日（火）全校朝会がありました。夏休み前ということで校長先生が子どもたちに次のような話をしました。

皆さん、お早うございます。明日から夏休みに入りますが、長い夏休みだからこそ、できることを見つけてみてはどうでしょうか。継続的にできる研究活動もその一つですね。

このような記事が新聞に紹介されていました。小学生が素朴な疑問から始めたカブトムシの観察が、夜行性とされていたカブトムシの活動リズムの常識を覆す発見につながったというニュースです。

発見したのは、埼玉県の小学6年生Aさんです。カブトムシは、皆さんも知っているように夜行性とされています。日没後に樹液を求めてクヌギなどの木に集まり、夜が明ける5時頃には飛び立っていきます。しかし、Aさんの庭の木には昼間でもカブトムシがいるのです。「なぜだろう？」Aさんは、小学4年生の夏、自由研究にしようと観察を始めました。

カブトムシが集まる庭の木は、東南アジア原産の植物シマトネリコでした。Aさんは「樹液が美味しいからだろう」と考えましたが、昼間も居続ける理由が分かりませんでした。

図書館で「カブトムシ」の本を読みあさりしました。すると、シマトネリコにはカブトムシが昼間も残っているようだと言っている本を見つけたのです。

その本の著者が、動物生態学を研究する山口大学の先生でした。Aさんは夏の観察結果を埼玉県から山口大学の先生に伝えたところ、先生から「深夜のデータやカブトムシの個体ごとのデータもとったら面白いことが分かるのでは？」と提案されたそうです。

Aさんは、2年間の観察記録を先生に送りました。その観察記録を見た先生は「大学の卒業論文でも、ここまで丁寧に観察する学生はいない。研究論文にできるのではないか」と思ったということです。

台湾ではシマトネリコに集まるカブトムシは夜行性だそうです。しかし、「虫は同じ種でも光や温度、エサで習性が変わることが知られています。日本のカブトムシが外来植物（東南アジア原産の植物シマトネリコ）と出会ったことで、本来なかった習性が引き起こされたとも言え、面白い結果だ」と先生は言っておられます。

2人の名前で投稿された論文は今年の4月、この分野のトップ学術誌の一つ、「エコロジー」に掲載されたそうです。

「不思議だな」「なぜだろう？」それは、科学の出発点です。身近なものや現象を「不思議だな」「なぜだろう？」と感じて、興味を持って、継続的に研究に取り組むことで、大発見に出会ったり新理論を打ち立てたりすることができます。夏休みは、このような取組ができる時間があります。皆さんの研究を楽しみにしています。皆さんの夏休みが、思い出に残る良い夏休みなることを願っています。そして、また元気な皆さんと会える日を楽しみにしています。

昨年度より、少し長い夏休みです。暑い日が続きますが、コロナ対策、熱中症対策をしながらも、夏休みならではの活動が出来るとよいと思います。

「第1回学校評価アンケート【保護者】の結果から

本校の取組に対する学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。保護者アンケートの結果について、昨年度1回目の結果とあわせて以下にお示しいたします。

R2年度1回目 令和2年8月末～9月第1週実施

R3年度1回目

令和3年6月23日～7月1日実施

評価領域	No	質問項目	R2年度1回目					肯定率	R2→R3
			そう思う	どちらかと言えばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない		
学習指導・教育研究	1	学校の授業では、お子様は自分の思いや考えをよく発表している。	R2① 37%	37%	8%	1%	14%	74%	+5
			R3① 34%	45%	12%	2%	5%	79%	
	2	学校では、子ども一人ひとりを大切にされた授業が展開されており、学習が充実するようにきめ細かな配慮が行われている。	R2① 36%	45%	3%	1%	12%	81%	+8
			R3① 41%	48%	3%	0%	6%	89%	
3	お子様は、家庭学習に積極的に取り組んでいる。	R2① 30%	49%	15%	2%	0%	79%	-2	
		R3① 37%	40%	18%	2%	0%	77%		
4	附属幼稚園・附属中学校との幼小中一貫教育の取組は、子どもたちの確かな学びと健やかな成長につながっている。	R2① 39%	44%	4%	0%	10%	83%	-2	
		R3① 41%	40%	7%	0%	9%	81%		
豊かな心の育成・生徒指導	5	お子様は、自分から進んで気持ちのよいあいさつをしている。	R2① 25%	42%	20%	4%	7%	67%	+11
			R3① 30%	48%	16%	2%	2%	78%	
	6	お子様は、自分から進んでサイレント掃除に取り組んでいる。	R2① 41%	33%	3%	0%	19%	74%	+9
			R3① 45%	38%	2%	0%	13%	83%	
	7	お子様は、目標をもって何かに意欲的に取り組むなど、仲間とともに楽しく学校生活を送っている。	R2① 49%	42%	2%	0%	4%	91%	+1
			R3① 52%	40%	4%	0%	2%	92%	
8	学校は子ども一人ひとりとの対話に心がけており、子どもが相談しやすい環境を作っている。	R2① 36%	46%	6%	1%	8%	82%	+3	
		R3① 42%	43%	6%	1%	5%	85%		
11	お子様の様子や学校生活のことで気になることがあつた時など、学校は保護者にとって相談しやすい状態になっている。	R2① 45%	44%	4%	1%	3%	89%	+2	
		R3① 45%	46%	4%	0%	2%	91%		
10	お子様は、家庭で、好き嫌いせず食事をしている。	R2① 40%	35%	19%	5%	0%	75%	-2	
		R3① 40%	33%	18%	6%	0%	73%		
安学全校	9	お子様は、公共マナーや交通ルールを守り安全に気を付けて、バスや徒歩で登下校をしている。	R2① 26%	51%	15%	2%	3%	77%	+15
		R3① 46%	46%	3%	1%	1%	92%		
学開く校かり園れつた	12	学校は、学校・学級便り、HPや連絡帳などを通して、保護者に学校や学級の教育方針や具体的な取組を発信している。	R2① 61%	34%	2%	0%	1%	95%	-1
		R3① 58%	36%	3%	0%	0%	94%		
実教習育	13	教育実習生が入ることでお子様の学校生活が楽しくなり、お子様の成長に役立っている。	R2① 54%	36%	2%	0%	6%	90%	-1
		R3① 63%	28%	2%	0%	6%	91%		

肯定率とは「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」とする肯定的な回答を合わせたものです。昨年度1回目のアンケート結果と比較して掲載しています。どの項目においても、概ね好意的な評価をいただいております。本校教育に対してご理解、ご協力いただける体制ができているといえます。昨年度の1回目に比べると「わからない」という項目の回答比率が下がっており、コロナ禍において学校の様子が見えにくくなっている状況においても、各項目は改善できています。「保護者にとって相談しやすい状態になっている」や「教育方針や具体的な取組を発信している」がいずれも90%を超えており、「開かれた学校づくり」について高評価をいただいております。今後も、子どもの様子や学校の様子をさらに伝えられるように、さらに工夫を重ねていきます。「お子様は、公共マナーや交通ルールを守り・・・」については、設問が「子どもたちは、公共マナー・・・」から「お子様は、公共マナー・・・」という問い方へ変わったため、ポイントが上昇したと考えています。

紙面の都合上、それぞれの項目について、詳細に言及できなかったことをお許しください。本アンケートは「児童」及び「教職員」、また、関連する質問項目の比較についてもまとめております。本校HPにて「保護者」の結果と合わせて公開しておりますので、ご覧いただけたらと思います。